

日本教育方法学会第 22 回研究集会のご案内

日時 2019 年 6 月 1 日(土) 10:00~16:00 (受付:9:30~)

- ①10:00~13:00 今なぜ「見方・考え方」なのか—教育内容・教科内容の再構築—
- ②14:00~16:00 防災教育の内容と方法

場所 愛知県産業労働センター ウィンクあいち



※ (JR・地下鉄・名鉄・近鉄) 名古屋駅より

・JR 名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩 5 分

・ユニモール地下街 5 番出口 徒歩 2 分

今なぜ「見方・考え方」なのか —教育内容・教科内容の再構築—

来(2020)年度から実施される新学習指導要領において、各教科・領域等に関する「見方・考え方」が提示されました。「見方・考え方」という用語はこれまでもいろいろな分野で用いられてきましたが、今回の「見方・考え方」とはどのように異なるのでしょうか。この「見方・考え方」は、これから学校現場で取り扱う教育内容・教科内容に大きな影響を与えるものとなります。新学習指導要領の全面実施に向けた移行期間のなか、この「見方・考え方」をどのようにとらえ、これからの教育実践を見据えて、それどのように対峙していくのか、理論的にも実践的にも重要な課題です。

今回の研究会では、この「見方・考え方」について、教科教育の立場から、また総合学習の立場から、そして教育課程論の視点から深く検討してみたいと考えました。多くの会員の皆さまの参加を期待しております。

司会者 田上 哲 (九州大学)
藤江 康彦 (東京大学)

提案者 石井 英真 (京都大学)

「見方・考え方」概念がカリキュラム開発に提起するもの
—教科の本質と能力の汎用性をつなぐ論理—

金馬 国晴 (横浜国立大学)

教育課程全体における総合(的な)学習(の時間)の位置づけから
「見方・考え方」を考える

渡部 竜也 (東京学芸大学)

「民主的で平和的な国家・社会の形成者」を育成するのに必要な見方・考え方とは何か本当に考えたことがありますか?—学問絶対主義の貧困—

第 22 回研究集会は、常任理事会で検討した結果、台風の接近に伴い日本教育方法学会第 54 回大会第 2 日目に中止となった課題研究Ⅳを研究集会で行うことが決定したため二部会で編成されています。午前中または午後のみのご参加も歓迎します。

防災教育の内容と方法

これまで学校における安全教育の内容は、生活安全、交通安全、災害安全に関する内容として取り扱われてきた(文部科学省『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』(2010年)。ところが、東日本大震災以降、なかでも災害安全に関する安全教育、すなわち防災教育に対する重要性が特に認識されてきている。今回の学習指導要領の改訂においても、主な改善事項の一つとして、防災・安全教育の充実が挙げられている。

このような動向において、今日の日本の防災教育は、「命を守る防災教育」として行われていると思われる。例えば、文部科学省の『「生きる力」を育む防災教育の展開』(2013年3月)では、防災教育のねらいを「災害に適切に対応する能力の基礎を培う」としている。これに対して、より広く、環境教育、持続可能性の教育、人間教育の一環として防災教育をとらえる立場もある。たとえば、ショウ・ラジブらの『防災教育—学校・家庭・地域をつなぐ世界の事例—』(明石書店、2013年)は、防災教育の進むべき方向として、学校と家庭、地域社会と家庭、複数の学問分野、複数の関係者、自然と人間、過去と未来が「つながる」ことに求めており、防災教育の根底にあるのは環境教育であると述べている。前者も、防災訓練を行いながら、人間としての在り方生き方を問い、家庭、地域との連携、各教科等における防災学習を行っている。後者も、防災訓練を否定しているわけではない。その意味では、この違いは力点の差かもしれない。

日本教育方法学会の『東日本大震災からの復興と教育方法—防災教育と原発問題—』(図書文化、2012年)は、原発問題も含めて防災教育を取り扱っている。この書物の中では、「日本列島に生きるものとしての客観的認識としての自然・社会・生活認識」「認識と行動の統一した教養としての防災教育」、「教育課程の中心に震災・復興の問題を位置付けること」が提言され、「稲むらの火」の濱口梧陵の「百年の安堵を図る」という言葉の重みが指摘されている。

本研究集会では、「釜石の奇跡」と呼ばれる釜石市の防災教育とその後の岩手県の防災教育の取組、「稲むらの火」を背景に持つ和歌山県の防災教育の取組、環境問題の一環としての防災教育の取組にもとづいて、防災教育の内容と方法について検討してみたい。

司会者 中野 和光 (美作大学)
田代 高章 (岩手大学)

提案者 森本 晋也 (文部科学省総合教育政策局 安全教育調査官)
震災を生き抜いた子どもたちに学ぶこれからの防災教育
—釜石市の防災教育と岩手県の復興教育の取組から—
梶本 久子 (和歌山市立楠見小学校)
ふるさとに学び、ふるさとを愛する防災学習
竹内裕希子 (熊本大学大学院先端科学研究部)
熊本における防災教育の事例

※本研究集会は公開で開催いたしますので、会員以外でも関心をお持ちの方に広くお声がけください。本研究集会への参加は無料です。事前予約も必要ございません。

お問い合わせ先：日本教育方法学会事務局
〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1
広島大学大学院教育学研究科教育法学研究室 気付
hohojimu@riise.hiroshima-u.ac.jp